

## 母子健康手帳の利用状況調査

フジモト シンイチ ナカムラ ヤスヒデ イケダ マユミ  
 藤本 眞一\* 中村 安秀<sup>2\*</sup> 池田真由美\*  
 タケダ ヤスヒサ ヒグラシ マコト  
 武田 康久<sup>3\*</sup> 日暮 眞<sup>4\*</sup>

**目的** 母子健康手帳を所有する保護者の、手帳への記入内容を把握し、分析した。

**方法** 調査客体は平成11年11月から12月において、新潟県、横浜市、岐阜県、静岡県、広島県（指定都市である広島市を除く）および広島市内のうち調査協力可能な231市町村・区で1歳6か月健康診査を受診した保護者13,271人のうち、この調査に同意する者とした。解析は、手帳の既読状況や記録記入の有無、紛失経験の有無、手帳の有用性など11項目について行った。

**成績** 10,900人の保護者から回答を得た。手帳の既読率、書き込み率ともに相当の高率であった。また、紛失率は0.9%と非常に低い結果となった。手帳の中で「予防接種の記録」について役に立ったと回答した人が最も多く、今後内容を改善する際に期待することとしては、「子育て」に関することが圧倒的に多かった。手帳の使いやすさについては、「どちらともいえない」と回答した保護者が多かった。なお、歯科保健に関することでは、手帳への書き込み率も低く、「役に立った」と感じている人が少ないという結果となった。

**結論** 既読率、書き込み率ともに高率であることから、日本において母子健康手帳を利用する割合は、非常に高いといえる。しかし手帳を使いやすいと考えている保護者が半数程度であることや、保護者の歯科保健に対する意識が薄いことなど、まだ問題点は残されている。今後の手帳改訂では、これらの問題点をいかに克服するかが課題となると考える。

**Key words** : 母子健康手帳, 健康診査, 母子保健, アンケート

### I 緒言

平成3年の母子保健法の改正により、平成4年4月1日から、母子健康手帳の交付事務が都道府県から市町村に委譲され、手帳の作成等についても市町村において行われることとなった<sup>1)</sup>(表1)。

この母子健康手帳は、妊娠、出産、および育児に関する一貫した健康記録であるとともに、妊婦および乳幼児に関する行政情報、保健、育児情報を提供するものであり<sup>5)</sup>、母子保健対策の一環として市町村によって妊娠の届出をした者に対して

交付される<sup>6)</sup>。

以上のことから、さまざまな情報をより身近に受け取るために、都道府県よりもより住民に身近な市町村が交付事務を行うようになったと考えられる。しかし、過去50年以上もの間、手帳の利用者である住民（主として母親）の立場に立った見直しは実施されてこなかった。21世紀にふさわしい「母子健康手帳」のあり方や、今後の手帳改善の参考に資することを目的とし、海外での研究方法や質問票などを参考に<sup>7)</sup>、わが国では初めてとなる母子健康手帳に対する利用者側からみた調査票を作成し<sup>8)</sup>、手帳の利用状況等についてかつてない大規模なアンケート調査を実施した。

本研究では、この調査結果を用いて母子健康手帳を所有する保護者の記入内容を把握し、分析することを目的とした。

\* 県立広島女子大学生生活科学部人間福祉学科

<sup>2\*</sup> 大阪大学人間科学部ボランティア人間科学

<sup>3\*</sup> 山梨医科大学医学部医学科保健学Ⅱ講座

<sup>4\*</sup> 東京家政大学児童学科小児第2研究室

連絡先：〒734-8558 広島市南区宇品東1-1-71  
 県立広島女子大学生生活科学部人間福祉学科人間発達コース1539研究室 藤本眞一

表1 母子健康手帳の歴史<sup>1,2,3,4)</sup>

事	項	要	点
昭和12	母子保護法公布	貧困母子家族の救済が目的	
昭和17	妊産婦手帳制度発足	世界初の妊婦登録制度・将来的な兵力を保つための人口増加施策のひとつ	
昭和22	児童福祉法制定	戦後の社会的な混乱から、児童を救済・保護することが目的	
昭和23	「妊産婦手帳」から「母子手帳」に改称		
昭和25	母子手帳 一部改正		
昭和26	児童憲章制定		
昭和28	母子手帳 一部改正		
昭和31	母子手帳 一部改正		
昭和41	母子保健法成立	母子健康をより「母と子」に直接働きかけることを目指す	
昭和45	「母子手帳」から「母子健康手帳」に改称		
昭和46	母子健康手帳 一部改正		
昭和48	母子健康手帳 一部改正		
昭和51	母子健康手帳 全面改正		
昭和52	母子健康手帳 一部改正		
昭和55	母子健康手帳 一部改正		
昭和62	母子健康手帳 一部改正		
平成 3	母子健康法 改正	手帳の交付義務：都道府県から市町村または特別区へ	
平成 4	母子健康手帳 全面改正		
平成 6	母子保健法 改正		
平成 9		母子保健サービスが市町村へ全面的に委譲される	

## II 研究方法

### 1. 調査客体

平成11年11月から12月において、新潟県、横浜市、岐阜県、静岡県、広島県（指定都市である広島市を除く）および広島市内（以上を合わせて、「4県2指定都市」という）のうち調査協力可能な231市町村・区において、1歳6か月児健康診査（以下、単に「健診」という）を受診する保護者で、この調査に同意する者を調査客体とした。ただし横浜市にあっては、調査に協力可能な保健所管内の保護者とした。

### 2. 調査客体数の推計

健診対象者数に余分を見込んだ調査票配布枚数17,946枚（新潟県3,868枚、岐阜県2,676枚、静岡県4,940枚、広島県3,112枚、横浜市850枚、広島市2,500枚）のうち、健診受診率80%、調査同意率80%と仮定して約11,500人程度が対象と推計した。

### 3. 調査方式

保護者へのアンケート形式とした（表2）。記入方法は、健診通知を事前に連絡する市町村にお

いては、健診連絡に同封し、回答の上健診時に封に入れて持参したものを回収した。また健診通知を連絡しない市町村においては健診の待ち時間の間に記入してもらい、その場で封筒に入れ、回収した。なお、封筒は密封したまま回収し、プライバシーには十分配慮した。

### 4. 解析方法

今回の調査では、母子健康手帳の記述内容の把握を目的とした。そこで本研究では、母子健康手帳の利用状況についてアンケートの集計結果を用いて比較・検討した。

## III 解析結果

### 1. 集計結果

今回の4県2指定都市における健診対象者数14,879人（新潟県3,479人、岐阜県2,175人、静岡県4,020人、広島県2,269人、横浜市775人、広島市2,161人）のうち、健診受診者数13,271人（新潟県3,124人、岐阜県1,984人、静岡県3,543人、広島県2,048人、横浜市715人、広島市1,857人）、調査枚数10,900人（新潟県2,417人、岐阜県1,646人、静岡県2,972人、広島県1,725人、横浜市484人、

表2 「母子健康手帳」に関する調査・アンケート質問票

- 質問 1. 母子健康手帳の内容を読んだことがありますか？ 1 はい 2 いいえ
- 質問 2. あなた自身で母子健康手帳の記録を書き込んだことがありますか？ 1 はい 2 いいえ
- 質問 3. 母子健康手帳に書かれた健診や体重などの記録をみたことがありますか？ 1 はい 2 いいえ
- 質問 4. 母子健康手帳の後半のページ（出産や育児のしおりなど）を読んだことがありますか？  
1 全部読んだ 2 一部読んだ 3 まったく読んだことがない
- 質問 5. 子どもを病院などに連れていくとき、母子健康手帳を持っていきますか？  
1 いつも持っていく 2 ときどき持っていく 3 ほとんど持っていかない  
4 まったく持っていったことがない
- 質問 6. 母子健康手帳を紛失したことがありますか？ 1 はい 2 いいえ 3 わからない
- 質問 7. 子育てにおいて、母子健康手帳は役に立ちましたか？  
1 とても役に立った 2 少し役に立った 3 どちらともいえない  
4 あまり役に立たなかった 5 まったく役に立たなかった
- 質問 8. 母子健康手帳のなかで、どの内容が役に立ちましたか？  
(当てはまるものがある場合、すべてに○を付けてください)  
1 妊娠の記録 2 出産の記録 3 新生児の記録 4 乳幼児検診の記録  
5 歯科の記録 6 予防接種 7 その他 ( )
- 質問 9. 母子健康手帳は使いやすいですか？  
1 とても使いやすい 2 少し使いやすい 3 どちらともいえない  
4 少し使いにくい 5 とても使いにくい 6 わからない
- 質問10. 今後、母子手帳の内容が見直されるとしたら、どのようなことを期待しますか？  
(当てはまるものがある場合、すべてに○を付けてください)  
1 ページ数を全般的に増やしてほしい 2 内容をもっと簡単にしてほしい  
3 子育てに関する情報をもっと盛りこんでほしい 4 父親のことも書く欄がほしい  
5 イラストを入れてほしい 6 カラーページを増やしてほしい  
7 手帳のサイズを大きくしてほしい  
8 その他（お気づきの点を遠慮なくお書きください。）

- 質問11. 母子健康手帳の以下の項目について記入されているかどうかお答えください。  
(実際にそのページを開いて、少しでも書き込まれていたときは、「1 記入あり」に○を付けてください)
- |                    |        |        |
|--------------------|--------|--------|
| (1) 妊婦の健康状態等       | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (2) 妊婦の職業と環境       | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (3) 妊娠中の経過         | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (4) 出産の状態          | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (5) 妊娠中と産後の体重変化の記録 | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (6) 妊娠中と産後の歯の状態    | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (7) 保護者の記録（1か月頃）   | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (8) 1か月健康診査        | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (9) 保護者の記録（3～4か月頃） | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (10) 3～4か月児健康診査    | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (11) 保護者の記録（1歳の頃）  | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (12) 1歳児健康診査       | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (13) 乳児身体発育曲線      | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (14) 予防接種の記録       | 1 記入あり | 2 記入なし |
| (15) 今までにかかった主な病気  | 1 記入あり | 2 記入なし |
- 質問12. 最後にあなたご自身とお子さんについておたずねします。  
・あなたの年齢 ( ) 歳 1 男性 2 女性  
・お子さんの数（このお子さんも含めて）( ) 人 ・このお子さんは ( ) 番目  
ご協力、本当にありがとうございました！

表3 母子健康手帳調査数等結果

	4県2指定都市	新潟県	岐阜県	静岡県	広島県	横浜市	広島市
健診対象者数	14,879	3,479	2,175	4,020	2,269	775	2,161
受診者数	13,271	3,124	1,984	3,543	2,048	715	1,857
受診率 (%)	89.2	89.8	91.2	88.1	90.3	92.3	85.9
調査人数	10,900	2,417	1,646	2,972	1,725	484	1,656
調査同意率 (%)	82.1	77.4	83.0	83.9	84.2	67.7	89.2

広島市1,656人)であった。なお、健診受診率89.2% (新潟県89.8%, 岐阜県91.2%, 静岡県88.1%, 広島県90.3%, 横浜市92.3%, 広島市85.9%), 調査同意率82.1% (新潟県77.4%, 岐阜県83.0%, 静岡県83.9%, 広島県84.2%, 横浜市67.7%, 広島市89.2%)であった(表3)。

## 2. 全体結果

アンケートの調査結果を表4に示す。

まず、手帳の既読率98.3%、書き込み率は97.8%であった。個別の記録では、健診や体重などの既読率は99.6%にも及び、関心の高さが想像される。市町村が自由に作成できる後半の部分においては、「全部読んだ」保護者は47.1%と半数以下であったが、「一部読んだ」保護者51.5%を含めると、ほとんどの保護者が目を通したことになる。医療機関等への持参率については「いつも持っていく」と回答した保護者は68.5%であったが、その一方で「ほとんど持っていない」も10.1%にのぼった。手帳の紛失は、0.9%の保護者が経験していた。子育てにおいて手帳が役に立ったかどうかについては、「とても」が41.5%、「少し」が45.5%であり有用であったといえるであろう。役に立った内容については、「予防接種の記録」81.6%、「乳幼児健診の記録」77.3%、「新生児の記録」75.0%、「出産の記録」74.0%、「妊娠の記録」72.2%といずれも高い値を示していた。使いやすさについては、「とても」が30.2%、「少し」が25.8%であったが、「どちらともいえない」が34.1%であった。内容を改善する際に期待していることは、「子育て」に関してが60.6%と高かったが、それ以外では「父親のことも書く欄」23.0%や「カラーの増頁」18.1%であった。その他自由記載が23.8%であったが、その主な内容は、自由記載欄を増頁、手帳のサイズ(よりコンパクトに、薄く)、表紙のデザインに対する不

表4-1 アンケート調査結果(その1)

	ある	ない
内容を読んだことがあるか(質問1)	10,470 98.3(±0.24)	181 1.7(±0.24)
自分自身で記録を書き込んだことがあるか(質問2)	10,414 97.8(±0.28)	236 2.2(±0.28)
健診や体重などの記録をみたことがあるか(質問3)	10,593 99.6(±0.12)	46 0.4(±0.12)
紛失したことがあるか(質問6)	95 0.9(±0.18)	10,545 99.0(±0.19)
記入状況(質問11)		
(1)妊婦の健康状態等	10,254 95.9(±0.37)	442 4.1(±0.37)
(2)妊婦の職業と環境	9,695 90.7(±0.55)	992 9.3(±0.55)
(3)妊娠中の経過	10,562 98.6(±0.22)	153 1.4(±0.22)
(4)出産の状態	10,559 98.5(±0.23)	165 1.5(±0.23)
(5)妊娠中と産後の体重変化の記録	8,412 78.8(±0.77)	2,258 21.2(±0.77)
(6)妊娠中と産後の歯の状態	2,608 24.9(±0.81)	7,872 75.1(±0.81)
(7)保護者の記録(1か月頃)	9,554 89.9(±0.57)	1,077 10.1(±0.57)
(8)1か月児健康診断	10,562 98.6(±0.22)	146 1.4(±0.22)
(9)保護者の記録(3~4か月頃)	9,427 88.7(±0.59)	1,205 11.3(±0.59)
(10)3~4か月児健康診査	10,285 96.4(±0.35)	383 3.6(±0.35)
(11)保護者の記録(1歳の頃)	8,818 83.3(±0.70)	1,770 16.7(±0.70)
(12)1歳児健康診査	7,144 68.0(±0.88)	3,364 32.0(±0.88)
(13)乳児身体発育曲線	8,250 78.4(±0.77)	2,273 21.6(±0.77)
(14)予防接種の記録	10,534 98.4(±0.24)	171 1.6(±0.24)
(15)今までにかかった主な病気	4,620 44.3(±0.93)	5,807 55.7(±0.93)

注) 上段 解答人数

下段 % ( ): 標本誤差

図1 母子健康手帳の各項目記入率

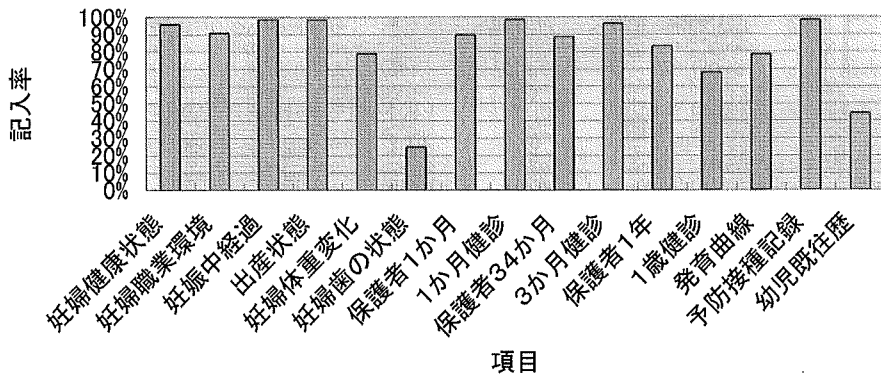


表4-2 アンケート調査結果 (その2)

後半のページを読んだことがあるか (質問4)	歯科の記録	2,215
全部読んだ		21.3(±0.77)
一部読んだ	予防接種	8,616
まったく読んだことがない		81.6(±0.73)
	その他	425
		4.0(±0.37)
子どもを病院などに連れていくとき持っていくか (質問5)	母子健康手帳は使いやすいか (質問9)	
いつも持っていく	とても使いやすい	3,185
		30.2(±0.86)
ときどき持っていく	少し使いやすい	2,722
		25.8(±0.82)
ほとんど持っていない	どちらともいえない	3,594
		34.1(±0.89)
まったく持っていかなかった	少し使にくい	680
		6.4(±0.46)
	とても使にくい	21
		0.2(±0.08)
子育てにおいて、母子健康手帳は役に立ったか (質問7)	内容が見直されるとしたら期待すること (複数回答) (質問10)	
とても役に立った	ページ数を全般的に増やしてほしい	651
		7.0(±0.48)
少し役に立った	内容をもっと簡単にしてほしい	1,200
		13.0(±0.63)
どちらともいえない	子育てに関する情報をもっと盛りこんでほしい	5,605
		60.6(±0.92)
あまり役に立たなかった	父親のことも書く欄がほしい	2,131
		23.0(±0.79)
まったく役に立たなかった	イラストを入れてほしい	1,513
		16.3(±0.69)
どの内容が役に立ったか (複数回答) (質問8)	カラーページを増やしてほしい	1,671
妊娠の記録		18.1(±0.72)
	手帳のサイズを大きくしてほしい	581
		6.3(±0.46)
出産の記録	その他	2,203
		23.8(±0.80)
新生児の記録		
乳幼児健診の記録		

注) 上段 回答人数  
下段 % ( ): 標本誤差

満（キャラクターを工夫するなど）、文字の大きさ（小さ過ぎる）、予防接種の時期等の記載および問診表の添付、見出しの設定、父親にも有用にすること、などであった（表5）。個別の記入状況では、「妊婦の健康状態」、「妊娠中の経過」、「出産の状態」、「1か月児健康診査」、「3～4か月児健康診査」、「予防接種の記録」がいずれも95%以上であったのに対し、「妊娠中と産後の歯の状態」24.9%、「今までにかかった主な病気」44.3%などが低かった（図1）。

#### Ⅳ 考 察

今回の調査で、調査客体を1歳6か月児の保護者に限定したのは、母子健康手帳の利用状況と併せてSIDSのキャンペーン普及効果についても調査するためであった。

次にアンケート集計人数であるが、10,900人という人数は、調査時期に1歳6か月児健康診査の対象となると想定される幼児、すなわち平成10年5～6月に出生した者が、人口動態総覧によると日本全体で合計203,555人である<sup>9)</sup>ことから、その1/5弱程度を調査したこととなり、標本抽出上の問題はないと言うことができる。また、健診受診率および調査同意率がそれぞれ89.2%および82.1%と調査前に予測した率よりも大きかったことから、調査設計に問題はないといえる（表3）。

手帳を読む経験については、手帳制度のある諸外国と比較してもほとんどの保護者が経験していることから、相当高率であるといえる。また、手帳への書き込みも同様であり、識字率の高いわが国の初等教育水準を反映しているといえる。しかし市町村の裁量で作成される後半のページでは、全部読んだ者が半分以下となった。今後、手帳内容の見直しに当っては、市町村の自主性を尊重しつつ、利用者にとって利用しやすい手帳となるような検討が必要であろう<sup>10)</sup>。医療機関へ手帳を持参する率は約2/3であったが、今後は手帳の積極的な利用を促すためにも、医療機関側からの手帳持参の呼びかけなども必要となってくるであろう。また母子健康手帳は、予防接種を受ける際に必要事項を記入することで予防接種済証に代えられることとされている<sup>11)</sup>。すなわち、母子健康手帳は“個人が持ち歩くカルテ”であるという意識を持ち、携帯する習慣をつけることが必要であ

る。手帳の紛失経験は1%未満と予想以上に低かったが、逆に言えばそれだけ大切に保管され、利用されていないとも解釈できる。手帳で役に立った部分は「予防接種の記録」が8割以上と際立って大きかったが、予防接種に関しての記録として活用するならば、小学校入学以降の6歳以上の部分との連携が必要不可欠であり、学校保健分野との連携・調整が重要な課題となる<sup>10)</sup>。手帳の利用のしやすさでは、「使いやすい」とした比率が上回っているといっても、「どちらとも言えない」が最も多いことを十分に認識し、今後予定される利用者の立場に立った改訂が望まれる。具体的な改訂希望では、少子・高齢化・核家族化時代を反映してか、子育てに関する情報や父親の育児に関する事項について記載を求めるものが多かった。手帳の記載内容については、妊娠・出産・育児の時期を通じて少しずつ記入されている割合が減少していく傾向が観察された（図1）。また先程も述べたように、母親自身の歯科保健に対する意識が低く、今後特に啓発していく必要があると考えられる<sup>10)</sup>。

なお、個別の記入状況についてであるが、サービス提供者が記入する項目（予防接種の記録等）の差では、サービス利用状況の差を反映しているだけであるという可能性もあり、今後検討を要する。

玉置ら<sup>12)</sup>の研究によれば、幼少期に母子健康手帳をみたり、貰ったりした経験のある者の方が、母子健康手帳の活用度が高いという結果であった。このことから、母親が妊娠・出産した時だけ母子健康手帳を利用するのではなく、子どもに積極的にその成長記録を見せることが有効であるといえる。

竹内ら<sup>13)</sup>は、市町村が交付時に使用説明を必ず行うことや、病院・診療所などの医療機関での継続的な使用説明により母子健康手帳の通読・記入率が高まると推測できるとしている。母子健康手帳の交付は、あくまで市町村による基本的母子保健サービスの一環として行われるものであり、手帳の利用者にとってさらに便利な手帳というだけでなく、手帳を市町村の基本的母子保健サービスに有効に活用できるような今後の母子健康手帳の改訂が望まれる。

表5-1 内容改訂の期待(自由記載)抜粋<sup>10)</sup>(その1)

主な期待する項目	具体的記述例
フリースペースを増やしてほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>各項目について、書き込めるスペースがもっとほしい。</li> <li>メモ欄がもっとほしい。</li> <li>子供の成長を記録できるページ(メモ書等)があるとすごく便利だし、母子手帳を利用する機会が多くなると思う。</li> <li>余白のページを増やしてほしい。</li> <li>保護者が記入できるページ(白紙)を“保護者の記録”の所に追加してほしい。そうすれば、もっと具体的に子供の成長記録を記入できる。</li> <li>自分で記録を書くのに月齢ごとに記入欄があると、どんな事をしたか分かりやすいと思います。</li> </ul>
手帳のサイズなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録部分としおり部分を別にするなど、手帳を薄くしてほしい。</li> <li>余分な所を省いてもっと薄くしてほしい。子供が増えると厚みがあり、持ち運びに不便です。</li> <li>コンパクトにしてほしい。</li> <li>情報もほしいが、持ち歩くことが多いので、記録する頁と分けて別冊にしたらどうか。</li> <li>この大きさだったら母子手帳ケースにも入るので、このままが良い。</li> <li>母子健康手帳別冊を母子手帳と一冊にしてほしい。</li> <li>予防接種手帳も切り離し方式で、一緒にしてほしい。</li> <li>サイズを全国统一にしてほしい。</li> </ul>
紙質・デザイン・字の大きさなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>表紙の絵が古くさい。</li> <li>表紙の絵をキャラクター物(その時流行している物など)にしては…</li> <li>好みの問題ですが、表紙のイラストがもう少しかわいい方がいい。</li> <li>以前よりイラストが多く、かわいい母子手帳が増えてきていると思います。カラーページやイラストを取り入れることで、興味も持てますしいいと思います。</li> <li>外側のカバーをもっとしっかりしたものにしてほしい。すぐに破れてしまうので使いにくい。</li> <li>もっと丈夫な紙にしてほしい。子どもが大きくなった時、子どもにあげるつもりです。</li> <li>表紙の紙が破れそう。真ん中の糸の部分がとれてしまう。</li> <li>何回もめくるので、次第にとじてある所がはずれてしまった。もっとしっかり製本してほしい。</li> <li>字をもっと見やすいものにしてほしい。</li> <li>文字が小さく読みづらい所がある。</li> </ul>

## V 結 語

平成11年11～12月に4県2指定都市で行われた1歳6か月児健康診査において、調査に同意した者10,900人に母子健康手帳に関するアンケートを実施した結果、次のことが明らかになった。

1. 医療機関、学校と保護者とを繋ぐ媒介としての手帳の役割について改めて見直し、学校保健分野における手帳の活用、市町村による基本的母子保健サービスの充実のための活用など、手帳に記入された内容がより有効に活用できるような工夫が必要である。

2. 市町村間において、使いやすさ、既読率(特に後半の市町村の判断で内容が決定されるページ)に差が出ないように、各地域の特色を活

かしながら、なおかつ保護者の改訂希望事項を考慮した手帳の改訂が望まれる。

稿を終えるあたり、調査にご協力いただきました4県2市の保護者の皆様、および行政関係者の方々に深く感謝いたします。

なお、本研究は、平成11年度厚生科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)を受け、実施した研究である。また結果の一部は、第59回日本公衆衛生学会総会<sup>14)</sup>にて発表した。

(受付 2001. 1.15)  
(採用 2001. 4.23)

## 文 献

- 1) 日本医療企画編. 保健・医療・福祉の総合年鑑 WIBA '96平成8・9年度版 1996: 562-563

表5-2 内容改訂の期待（自由記載）抜粋<sup>10)</sup>（その2）

主な期待する項目	具体的記述例
予防接種に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 予防接種の時期・順序などを分かりやすくしてほしい。</li> <li>• 予防摂取の間診票を添付してほしい。</li> <li>• 予防接種のコーナーを分かりやすく、さっと開けるようにしてほしい。（例えばページの前の方を持って行くなどする）</li> <li>• 表紙をかわいくしてほしい。2年ぐらいに1度は変えてほしい。子どもが3人もいて同じだと分かりづらいので…</li> </ul>
インデックス・見出しなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>• インデックス（見出し）を横につけてもらいたい。</li> <li>• すぐに目的のページが開けるような見出し、色分けなどわかりやすく使いやすくしてほしい。</li> <li>• 要所にインデックスなどを付けるなど、手帳を開かなくてもすぐ分かるようになったらいいと思う。いちいち目次は見ないので。</li> </ul>
父親のための手帳など	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 父親が見れる（見だし）ページ、例えば父親にしか出来ない子どもとの遊び方や、育児に参加する時参考になるページ。</li> <li>• 父親専用の手帳があればよい。（母親と違って自覚が持ちにくいので）</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 里帰り出産なので、全国共通のものにしてくれたら…。ないページとあるページがあったので、ちょっと不便だった。</li> <li>• 発育曲線のデータが古いです。なるべく新しいものを取り入れてほしいです。</li> <li>• 市町村で発行しているものなので、市町村の育児情報をもっと盛り込んでほしい。</li> <li>• かかりやすい病気や対処の仕方など、簡単でも良いので書いてあると母子手帳をみる機会が増えると思う。</li> <li>• 多胎児に関する情報を入れてほしい。</li> <li>• 外国人なので母国語の手帳がほしい。</li> <li>• 母乳の事。例えばよく出る体操とか、母乳で悩んだことが多かったので…。</li> <li>• よくありそうな相談事と、解答等をのせてもらえるといい。（病気の事も、生活面の事も）</li> <li>• エコー写真を貼るようなスペース、もしくはポケットがあればいいなあと思う。</li> </ul>

- 2) 竹村 喬, 岡本喜代子, 長浜博子, 他. 母子健康手帳と妊産婦管理 母子健康手帳の誕生と変遷. ペリネイタルケア. 1993; 12(1): 62-69
- 3) 宮原 忍. 大きく変わる母子保健 我が国の母子保健制度発展の軌跡 母子健康手帳の変遷を中心に. 周産期医学. 1995; 25(1): 19-22
- 4) 五十嵐世津子, 石崎智子. 「母子健康手帳」の歴史 母子保健思想の歴史の変遷が「母子健康手帳」に与えた影響. 弘前大学医療技術短期大学部紀要. 1998; 22: 65-73
- 5) 財団法人厚生統計協会編. 母子保健対策の現状. 厚生省の指標・臨時増刊・国民衛生の動向 1999; 46(9): 108-109
- 6) 厚生省衛生法規研究会編. 母子保健法. 実務衛生行政六法平成11年度版. 東京: 新日本法規出版株式会社, 1998: 810
- 7) Munchiro Hirayama, Ina Hernawati, Sook Shin, et al. Keynote Reports. International Symposium for Maternal and Child Health Handbook Initiatives. 1998: 7-54
- 8) 中村安秀. 母子健康手帳の国際的活用とその評価ならびに改良に関する研究. 平成11年度厚生科学研

- 究（子ども家庭総合研究事業報告書（第1/6）2000: 509-514
- 9) 財団法人厚生統計協会編. 人口動態総覧. 厚生省の指標・衛生と福祉と保険の統計 2000; 47(4): 55
- 10) 藤本眞一. 母子健康手帳の利用状況とSIDS予防キャンペーンの保護者への普及状況についての研究. 平成11年度厚生科学研究（子ども家庭総合研究事業）報告（第1/6）. 2000: 519-522
- 11) 遠藤雅夫. 改正された「母子健康手帳」歯科保健指導での活用. デンタルハイジーン. 1992; 12(12): 1117-1125
- 12) 玉置昭子, 松本未乃, 岡田由香. 妊娠期間における母子健康手帳の自己記入. 愛知県立看護短期大学雑誌. 1994; 26(26): 21-31
- 13) 竹内弘子, 飯田美代子, 鈴木和代, 他. 妊娠期間における母子健康手帳の利用状況について. 愛知県母性衛生学会誌. 1999; 17: 25-32
- 14) 福家早苗, 池田真由美, 藤本眞一, 他. 母子健康手帳および母子保健情報提供方策の評価に関する検討（第1報）. 日本公衆衛生雑誌. 2000; 47(11): 572



## UTILIZATION OF MATERNAL AND CHILD HEALTH HANDBOOK IN JAPAN

Shinichi FUJIMOTO\* , Yasuhide Nakamura<sup>2\*</sup>, Mayumi IKEDA\* ,  
Yasuhisa TAKEDA<sup>3\*</sup>, Makoto HIGURASHI<sup>4\*</sup>

**Key words** : Maternal and child health (MCH), MCH handbook, Health examination, Questionnaire survey

**Objectives** In Japan, Maternal and Child Health (MCH) handbook have been widely used for more than fifty years. However, there has been no evaluation research from the users' point of view. We therefore conducted a questionnaire survey of guardians to evaluate how they utilize MCH handbooks.

**Methods** A well - structured questionnaire survey was carried out in 231 municipalities, towns and villages of four prefectures (Gifu, Hiroshima, Niigata and Shizuoka) and one city (Yokohama) in November and December 1999. The targets were 13,271 guardians who visited health stations for 18 - month examinations of their children and agreed to participated in our research. The questionnaire covered situation of usage and loss by guardians, utility from the users' perspective, and suggestions for improvement.

**Results** We obtained answers from 10,900 guardians. As for reading rate and writing rate, 98.3% of respondents had read and 97.8% of them had written down something in relation. Only 0.9% of respondents had lost this MCH handbook. Generally, 87.0% of respondents answered that MCH handbook was helpful for child bearing and 81.6% of them said the record for immunization was useful. However, 34.1% of respondents answered it was not simple to utilize MCH handbook and 60.6% of them requested more detail on child bearing. As for dental health, the completion rate for information was low and only 21.3% of respondents reported for the dental record was useful.

**Conclusions** The research shows MCH handbook are highly utilized in Japan by almost all guardians . However, there are still problems to be solved; many guardians feel that they are not simple to use and the section on dental health is not highly particularly helpful. Improvements should be made in future in light of the viewpoints of guardians and parents.

---

\* Department of Human Development and Welfare, Hiroshima Prefectural Women's University

<sup>2\*</sup> Research Center for Civil Society, Graduate School of Human sciences, Osaka University

<sup>3\*</sup> Department of Health Sciences, Yamanashi Medical University

<sup>4\*</sup> Division of Child Health, Department of Juvenile Education, Tokyo Kasei University